

## 令和4年度第3回奈良県文化振興戦略懇話会開催概要

- 1 開催日時：令和5年2月3日（金）13：30～15：00
- 2 会場：一般社団法人奈良県経済倶楽部5階大会議室
- 3 テーマ：文化施設の連携に向けた取組について  
ー共通のテーマによる事業展開など、今後、文化施設の連携を戦略的に進めていくためのアイデアー
- 4 出席者：青柳委員、井上委員、上野委員、千田委員、長谷川委員、藪内委員、王委員、荒井知事
- 5 議事概要  
懇話会は非公開で開催。委員からの主な意見は以下とおり。

### 【主な意見】

- ・ 文化施設の連携を進めるためには、まず、各施設の設立目的、目指していること、どのような活動をしているかについて、互いに知る必要がある。
- ・ 奈良県には、社寺等も含めると他県をしのぐ多くの文化施設がある。文化施設間の情報交換等の取組を契機に、横の連携や人の交流が進むといい。
- ・ 共通の話題・目標があると、つながりは深くなる。文化施設間のスタッフ同士が、日常的に気軽に話し合うことで、共通のテーマなどのアイデアが出てくる。
- ・ 地域の住民が元気になるように、文化活動を促進することが大きな目標。様々な文化施設が連携し、展示のみでなく、文化活動を戦略的に展開していく必要がある。
- ・ コミュニティが持つ地域に根付いた文化が失われつつある中、文化施設には、各コミュニティの文化を掘り起こし、拾い上げていくことが求められている。
- ・ 人によって親しみのある文化は異なり、多層的な取組が重要ということを忘れてはいけない。教科書的な文化に興味がない人にとって、文化施設がどういう意味を持つかも考えなければならない。
- ・ 地域によって生活に溶け込んでいる文化は異なる。地域ごとの特色をうまく捉えてスポットを当てるようにすれば文化に厚みが出る。
- ・ 文化の厚みを増すためには、地域の歴史文化を積極的に盛り込んだ教育が重要。学校教育における実地教育の場として、文化施設を活用してはどうか。
- ・ かつて海外への修学旅行が流行していたが、日本が見直される時代になっており、伝統文化を大切にすることで、日本の始まり「奈良」を訪れる人が増えると思う。
- ・ 一昔前、アジアでは、日本の「経済力」が注目されていたが、日本の潜在的な「文化力」は莫大であり、「文化力」への注目に転換していく必要がある。
- ・ こどもの頃に見学し、印象に残った展覧会が同年代の研究者の間で同じであり、話題になることがある。蒔いた種は芽が出ることを実感する。改めて、戦略的に取り組むことが必要とを感じる。
- ・ 複数の文化施設が融合して生み出す新たな取組の展開により、奈良の楽しさや魅力が国内外に広まり、文化活動振興大綱案の「よく生きる」ことにつながっていく。

